

万^ま里^で小^{こう}路^じ藤^ふ房^{さき}卿^{よう}（阪^さ谷^か朗^{たに}盧^{ろう}）

誰^{たれ}か 中^{ちゆう}興^{こう}を 使^して 乱^{らん}麻^まと 為^ならしむ

雲^{うん}林^{りん} 豈^{あに} 肯^{あえ}て 天^{てん}家^かを 忘^{わす}れんや

君^{くん}主^{しゅ} 若^{もし} 臣^{しん}が 踪^{そう}跡^{せき}を 問^とい たまわば

為^{ため}に 奏^{そう}せよ 松^{しょう}陰^{いん} 露^ろ華^かに 泣^なくと

誰使中興爲亂麻 雲林豈肯忘天家
君王若問臣踪跡 爲奏松陰泣露華

解説 万里小路藤房を詠った詩。

語釈 ※万里小路藤房＝藤原藤房。後醍醐天皇の側近で、中納言・正二位。建武の中興の功臣。※中興＝建武中興。※乱麻＝国の乱れること麻の如しという。※雲林＝雲のたちこめた深山。※天家＝後醍醐天皇のこと。※踪跡＝ことが行なわれ、その結果として残ったもの。事跡。※松陰＝松の木の陰。※露華＝白く光る露。木の葉についた露。

通釈 誰が建武の中興の業を更に乱れた麻の如き有様にしたのであろうか。臣藤房は僧となり深山に隠れても、一日として後醍醐天皇を忘れることはないでありましょう。もし天皇が臣の行方をお訪ねになったならば、以前天皇と歌を交したように、松の木陰で露に泣いているでありましょうとお答え下さい。